学校番号	2001

令和５年度　芸術科

教科	音楽	科目	ｿﾙﾌｪｰｼﾞｭ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	視唱ステップアップ（全音楽譜出版社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・ソルフェージュは「専門科目」です。より専門的に音楽へアプローチをするために必要な読譜力と表現力を鍛えるための授業です。
・学習内容は「新曲視唱・視奏（楽譜を読む力）」「聴音（音を聴いて再現する力）」２つの実技を行います。
・学習の到達度は、実技テストで評価します。
・ただ「楽譜を見て音を出す」のではなく、楽譜に書かれている内容を「どのように表現したいか」を考えながら取り組んで欲しいと思います。

2　学習の到達目標

音楽を構成する諸要素を正しくとらえ、音楽的に表現するための基礎的能力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽を構成する諸要素に関心をもち、聴音、新曲視唱、コールユーブンゲン等の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけ、創造的に表している。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。
評価方法	演奏の聴取 ワークシート	演奏の聴取 ワークシート	演奏の聴取 ワークシート	観察 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	リズム・メロディを知覚する	【コールユーブンゲン】 【新曲視唱】	○	○	○	○	a:学習に主体的に取り組もうとしている。 b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質を感受し、表現している。 c:表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。 ｄ:他の生徒の演奏を聴き、表現の工夫について考える	観察 演奏の聴取
1学期	聴き取ったメロディを再現する	【単旋律聴音・高音部記号】	○	○	○		a:学習に主体的に取り組もうとしている。 b:リズムや音程を正確に聴き取ることができる。 c:聴き取った音を楽譜上に正確に記譜することができる。	観察 課題提出
2学期	リズム・メロディを知覚する	【コールユーブンゲン】 【新曲視唱】 過去の音楽大学入試問題を含め、実践的な課題をこなす。	○	○	○	○	a:学習に主体的に取り組もうとしている。 b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質を感受し、表現している。 c:表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。 ｄ:他の生徒の演奏を聴き、表現の工夫について考える	観察 演奏の聴取

2学期	聴き取ったメロディを再現する	【二声聴音・四声聴音】 二つの異なるメロディを同時に聴き取る。また、四声聴音は密集・開離、両方の課題に取り組む。	○	○	○		a:学習に主体的に取り組もうとしている。 b:音程やハーモニーを正確に聴き取ることができる。 c:聴き取った音を楽譜上に正確に記譜することができる。	観察 課題提出
3学期	弾き歌い	【新曲視唱・伴奏付】	○	○	○	○	a:学習に主体的に取り組もうとしている。 b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質を感受し、表現している。 c:表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。 d:他の生徒の演奏を聴き、表現の工夫について考える	

※　表中の観点について　a:音楽への関心・意欲・態度　b:音楽表現の創意工夫
c:音楽表現の技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。